

**南風原文化センター 常設展示室「南風原の沖縄戦」**  
**事前学習プログラム案**

## 1. 趣旨

南風原文化センター常設展示室の見学において、事前にフォトランゲージとワークを実施することによって、より展示への関心を高め、理解をうながすことを目的とする。


## 2. 対象 小学校高学年～高校生（目安）

## 3. 所要時間 事前学習約 45 分 + 常設展示室見学 30 分～

<事前学習> 3～5 人程度のグループでの学習

【準備・必要なもの】①写真（印刷：グループ分） ③ワークシート（印刷：人数分）

・生徒用タブレット／インターネットにアクセスできる環境

	分	学習活動	指導・支援	使用する教材
フォトランゲージ (20分)	2	モノを観察してみよう	「誰が・いつ・どこで使っていた?」「なぜ穴があいている?」など、観察をうながす発問をする。	①「穴のあいた着物」写真をコピーして各グループに配付。 
	3	グループ内で気づいたことを共有しよう		
	10	グループの意見を全体に発表しよう	黒板に意見を書く。 「なぜそう思った?」などと発問する。	
	5	説明をきこう	解説を読む。 時代背景などについては学習段階に応じて補足する。	②「穴のあいた着物」解説
ワーク (20分)	10	デジタル展示室の戦争遺物・遺留品のなかから気になるモノをえらぼう	フォトランゲージで着目した「いつ・誰が・どこで」使ったかなどに注目して選ぶように伝える。	③ワークシート配付 ・タブレット（南風原文化センターデジタル展示室にアクセス）
	10	えらんだモノについて、ワークシート(2)に名称を書き、(3)にスケッチしよう	ワークシート(4)のふきだしにはまだ何も書かないように伝える。	
まとめ (5分)	5	まとめ	自分がえらんだモノにどういう背景があるか考えながら展示見学をするように伝える。	

## &lt;展示見学&gt;

【準備・必要なもの】③ワークシート（各自持参）

・筆記用具（えんぴつまたはシャープペン ※ボールペン等は禁止）

学 習	分	学習活動	指導・支援	使用する教材
はじめに (5分)	5	展示をみる上での注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事前学習でみた着物やえらんだモノが展示してあることを伝える。</li> <li>●ワークシート(4)に自分がえらんだモノやモノが見つかった場所についてわかったことを書き込むように伝える。</li> <li>●ワークシート(5)のふきだしに、モノが伝えたいメッセージを想像して書くように伝える。</li> </ul>	
展示見学		モノについてわかったことをワークシート(4)の枠内に書こう	展示室のキャプションや書籍を参考にするように伝える。	③ワークシート
		モノが私達に言いたいことを想像して、ワークシート(5)のふきだしに書こう	※見学時間の半分が過ぎた頃 自分がえらんだモノは、私達に何を語りかけているか、何を感じ取ったかをふきだしに書くように伝える。	③ワークシート
まとめ (5分)	5	仲間とワークシートを共有し、感想を言い合おう	<p>※ロビーに集合</p> <p>近くにいる仲間（もしくはグループ）でワークシートを見せ合い、感想を伝え合うように指示する。</p> <p>（時間に余裕があれば数人に発表させる。）</p>	③ワークシート

①【配付用】穴のあいた着物



## ②【教師用】穴のあいた着物 解説

これは、南風原文化センターで展示されている着物です。藍で染められた格子柄の木綿の着物です。琉球絣や南風原花織で有名な織物の里である南風原では、かつてよく織られた色柄です。そして、目を引くのは着物の腰に当たる部分にあるこぶし大の穴です。

この着物の持ち主は野原カメさんといい、南風原文化センターがある南風原の喜屋武に住んでいました。喜屋武は織物の産地で、この着物はカメさんが10代の頃に自分で織ったものです。沖縄戦があった1945（昭和20）年当時、カメさんは37歳で、5歳の息子がいました。夫は防衛隊として召集されていたため一緒にはおらず、沖縄戦では幼い息子とともに本島南部を逃げまわりました。

カメさんは、アメリカ軍が北の方から南風原に近づきつつあった1945年5月半ばに、南へと逃げました。息子をおぶって、上からこの着物を雨よけ代わりに羽織って帯を結んで逃げました。暗い夜道、砲弾を避けながらの避難でした。避難の最中、玉城村（現南城市）糸数から前川を通ったとき、照明弾が飛び交い、夜だというのに真昼のような明るさになったそうです。そのとき、突然背中の子が泣き出しました。着物を突き破り、息子の右ふくらはぎに砲弾の破片が突き刺さっていたのです。道すがら衛生兵に会い、薬を分けて欲しいと頼んだが断られ、治療できぬまま息子は傷口から破傷風という感染症にかかり、5日後に亡くなりました。しかしその後、カメさんは亡くなった息子の遺体を数日背負ったままだったそうです。見かねた身内の人たちに引き離され、息子の遺体は岩陰に葬られたそうです。戦後、カメさんは遺骨を拾って墓に納め、何度か葬った場所に行き拝んでいたそうです。

カメさんは戦後も、避難時に羽織っていた穴のあいた着物を風呂敷に包み保管していたそうです。カメさんにとって、この着物は息子が生きていた証なのでしょう。家族にこの着物をみせたのは戦後37年経ってからのことだったそうです。37年間、家族にも着物をみせられないほど息子を想い続けたであろうカメさんの気持ちを考えられますか？ひとつの命が奪われた瞬間と、その後永遠に続く悲しみ、苦しみを、この着物が伝えます。



③ワークシート

# あなたが気になるモノとの出会い

名前：

(5)モノからの  
メッセージ

(3)えらんだモノの絵をかこう

(1)南風原文化センターデジタル展示室で  
あなたの気になるモノをえらぼう



(2)モノのなまえ

(4)展示をみたり  
自分で調べて

わかったこと  
初めて知ったこと

